

真国寺で「凶」おみくじ



永田円了住職（右）からおみくじを受け取る参加者＝富山市八ヶ山

富山市八ヶ山の真国寺で20日、「元祖」とされるおみくじを引き、その解釈を語り合う集いがあった。3割が「凶」というおみくじだが、永田円了住職は「凶はありがたい。凶からは学ぶことがある」と話し、凶が出るたびに拍手がわき起こった。

平安時代の天台宗の僧、元三大師げんさんだいし（912～985）が詠んだ五言絶句の漢詩が由来とされるおみくじで、全部で100首あるうちの3割が凶。真国寺には江戸時代出版の元三大師のおみくじ本が伝わり、現代語訳を付けて「復活」させた。ちまたでは凶を減らしたおみくじが多い中、オリジナルにこ

だわるのは凶にこそ強いメッセージがあると考えからだ。

参加者35人が順々におみくじを引き、永田住職が「凶」と読み上げるたびに拍手でお祝い。それぞれ自分なりの解釈を発表し、今年の生き方について考えた。

吉を引いた黒部市の松倉美樹さん(41)は「吉か凶かよりも内容が大事。私には、やっていることの結果が出ないというジレンマがあったが、おみくじに『天命を待て』とあった。自分のあるべき姿が見つめました」とすがすがしい笑顔を見せた。

(成川彩)